

特別対談

自然体で取り組めた グランプリのテーマ

石田 創立100周年の節目に、当社は新しくアートアワードの取り組みへ挑戦しました。その中で、さかいさんの作品と出会うことができ、大変嬉しく思っています。

さかいはるかさん (以降さかい) まさかグランプリという輝かしい賞をいただけるとは思っておらず、驚きと喜びの両方を感じています。私自身、普段からアートを通じて人や社会とつながることを大切にしたいと考えています。こうしたアートアワードやカレンダーという形で企業の方と寄り添いながら、多くの人に作品を発信する機会をいただき、とても励みになりました。

石田 今回のアワードでは、当社が掲げる企業理念や100周年におけるメッセージをもとに、「自然との調和・循環」をテーマにした作品を制作していただきました。人々の快適な環境づくりを考えるうえで、脱炭素社会の実現など自然との共生は、当社にとって重要なテーマです。さかいさんはこのテーマを見たとき、どのような印象を持たれましたか。

さかい 自然や循環というキーワードは、私が普段から取り組んでいるテーマにとっても近く、共鳴するものを感じました。大学時代のゼミの先生からお誘いをいただいて参加しま



したが、そうしたイメージから私の名前が頭に浮かんだんだと思います。今は制作場所を自宅と一体にして作品を制作していますが、日常の中で幼い二人の息子からもアイデアのヒントをもらいながら、無理なく自然体で制作を進めることができました。

さまざまなスケールから 生命の流れを描く

石田 今回のグランプリ作品である「生命の息づかい」は、どのように

インスピレーションを広げて制作されたのでしょうか。

さかい 私は普段、偶然目にしたものをメモや日記のようにためていき、それを画面の中にちりばめるようなイメージで作品を描いています。落ちていく小さな紅葉や、自然の美しい風景を集め、自分なりに抽象化していくんです。

今回のテーマに対しては、私は生命の粒と泡のようなイメージで捉えていました。それらは人の一生であったり、小さな虫や顕微鏡で覗いた世界であったり、宇宙の星々かもしれない。ミクロとマクロ、さまざまなものがゆったりと命の旅をし、変化し、別のものへとくっついていたり離れたりを繰り返しながら、最後には消失して、新しい命へつながっていく。そうした世界観を表現したかったんです。

石田 私も作品を拝見したとき、さ

まざままものが一緒に存在する点に、生命の息づかいを感じました。

さかい ありがとうございます。今回の作品には、子どもたちと一緒に見た2つの景色も取り入れてあります。一つは地元で見たホテルの儂げな光。もう一つは京都水族館で見たクラゲです。ゆったりとした様子や自然な揺れ方に、インスピレーションを得ました。

石田 先ほどご自宅で制作されたという話もありましたが、ご家族との時間を大切にしながら、それをアーティストとしての糧にしていきたいというのは、とても励みになる話です。当社も、女性の働きやすい職場や多様な働き方の実現を目指し、取り組みを進めています。職場で働くだけでなく、多様な選択肢を今後も模索していきたいですね。

アワードを継続して 社会とアートの接点へ

石田 今年アートアワードを実施することができ、私自身とても良い試みだったと感じており、今後も継続的に実施していく予定です。また、ポスターカレンダーという形に限らず、若手アーティストの方へチャレンジの場を提供していくことで、広く文化・芸術に貢献できる企業を目指していきたいと思えます。

さかい 私としては、例えばオフィスの中であったり、人々の暮らしの

アートと社会が つながり 新しい可能性が 生まれる



中に、もっと作品があってもいいと思うんです。そうした経験を通じて、心が豊かになり、人とのつながりもできていく。今回の対談でも、作品について話したり、一緒に考えたりする機会をいただけて、とても嬉しく思いました。自分自身、これからもっと多様な場所で作品を発表することや、作品を通じて人や社会とつながることを大事にしていきたいと感じました。今回のアワードへの参加を通じて、大きなパワーをいただきました。

石田 さかいさんの作品をポスターカレンダーの形で届けることができ、私たちにとっても素敵な機会となりました。こちらこそ、今回はありがとうございました。



企業だから できる支援を 今後も 続けていきたい



2026 Harmony Calendar

Artist Profile

さかいはるか

2013年 京都市立芸術大学 美術科 油画専攻 卒業、2015年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 修士課程 絵画専攻(油画) 修了。「いびつでやさしい」をテーマに、色鉛筆で絵を描いている。自然と目があって、息をすることを思い出すような絵をめざしている。

三機工業
石田博一
代表取締役社長

SANKI ~Harmony Calendar~
アートアワード2026
グランプリ 受賞作家
さかいはるかさん

「自然との調和・循環」から 生まれる企業とアートの共鳴

ポスターカレンダーの完成を記念し、石田社長とグランプリを受賞したさかいはるかさんに企業とアート、双方の視点からアワードの意義や未来について語っていただきました。

(取材撮影：2026年1月)